

表彰

平良賀計先生瑞宝小綬章受章・
幸地昭二先生日本医師会最高優功賞受賞・
糸数健先生沖縄県功労章受章祝賀会

常任理事 真栄田 篤彦



左より幸地昭二先生と登代夫人、平良賀計先生と正子夫人、糸数健先生と瑠美子夫人

この度の平良賀計先生瑞宝小綬章受章、幸地昭二先生日本医師会最高優功賞受賞、糸数健先生沖縄県功労章受章を心よりお祝い申し上げます。

先生方のご受章を称えた祝賀会が、平成21年11月25日ロワジュールホテル那覇において行われ、会場溢れんばかりの多くの方々が出席され喜びを共にされました。



はじめに主催者を代表して宮城会長より、本県の保健、医療活動を通し県民生活の向上発展に大きく貢献された先生方の永年のご労苦に対する労いと感謝

の言葉が述べられると共に、県民が希求する安心・安全な医療の構築のため、引き続きのご指導、ご助言を賜りたい旨の挨拶がありました。

続いて、友寄英毅那覇市医師会長より先生方のご功績が紹介された後、来賓を代表して奥村啓子県福祉保健部長より、先生方に対しご祝辞が述べられました。

その後、記念品・花束贈呈が行われ、先生方よりお礼のご挨拶が述べられ、新垣善一議長の音頭による乾杯の後、懇親へ移りました。

なお、先生方の業績内容と謝辞を以下のとおり掲載します。

業績紹介

友寄英毅那覇市医師会長



瑞宝小綬章を受けられた平良賀計先生、日本医師会最高優功賞の幸地昭二先生、沖縄県功労者表彰の糸数健先生、本日は誠にありがとうございます。

叙勲と日本医師会最高優功賞と沖縄県功労者表彰、本日は「三賞揃い踏み」です。これは那覇市医師会開創以来初めてのことであり、会員一同、大変誇りに思い喜んでおります。御三人の先生方に心から敬意と感謝とお祝いを申し上げます。

それでは御三人のご業績を紹介いたします。

先ず、平良賀計先生ですが、先生は昭和33年に中央神経科医院を、昭和34年に天久台精神科医院を開設され、以来、沖縄県の精神障害者の治療、精神薄弱児の教育福祉対策に大きく貢献してこられました。その他家庭裁判所調停委員、精神衛生鑑定、麻薬撲滅対策など多方面の精神衛生事業に貢献してこられました。

昭和43年には天久台病院となり、その後、介護老人保健施設クリニックおもろまち、障害福祉サービス事業施設などを開設して大きく発展してきました。

今年是天久台病院開設50周年の記念祝賀会も行われ、又、先生には米寿を迎えられましたので、三重のお祝いの年になりました。

平良賀計先生は趣味多彩な先生です。俳句は沖縄県現代俳句協会長を務められる程の名手であり、今年には88句からなる「米寿記念句集」を発刊されました。

賀計先生はダンスの名手でもあります。あるパーティーで奥様とダンスを披露された先生の姿はまるでフレッド・アステアを目の当たりに見る様でした。

先生の「米寿記念句集」にもありますように「卒寿を見据えて」ますますお元気で楽しくご活躍下さい。本日はおめでとうございます。

次に幸地昭二先生のご業績を紹介致します。

先生はこれまで沖縄県医師会理事、副会長、那覇市医師会副会長、沖縄臨床検査ガンセンター会長、消化器内視鏡会長などを歴任し、広く医師会事業に貢献されました。

又、祖国復帰前の胃カメラ同好会や沖縄対ガン協会の設立と運営にも中心的に活躍されました。

昭和40年に幸地先生が中心になって始められた成人病クリニックは医師会と新聞社が共催して行った組織的な胃集団検診であり、対ガン思想の啓発普及の上で、画期的な事業でした。

私が最も強調したいことは、昭和38年頃から始まった、消化器診断の研修に我が国トップクラスの先生方を次々と招聘して実施したことです。講演、質疑応答の後、会員が持参した胃X線フィルムの読影指導が夜11時、12時に及ぶこともよくありました。

講師の先生方は1週間、2週間、最も長い人は1ヵ月近くも沖縄に滞在して、会員施設での実技指導を行ったのです。

この様な研修は全国的にも希なことであり、当時消化器診断の研修に参加した会員は皆、幸地先生から大きな恩恵を受けたのであります。この様な研修を実現できたのは幸地先生が人脈豊富であっただけではなく、人とのつながりを大切にされたからだろうと思います。

昭和44年に沖縄内視鏡学会会長として国立ガンセンター及び癌研究会研究所と協力して本県における悪性新生物実態調査を行ったこと、昭和47年に那覇市医師会看護学校の設立と運営に尽力されたこと、昭和48年に「那覇地区医師会夜間急病センター」の設立と運営に尽力されたこと、多くの会員が日本内視鏡学会の認定医を取得するように導いたことも幸地先生の大きな功績であります。

幸地先生にはこれからも健康第一にして、私たちをご指導下さいませようお願い致します。

続きまして、糸数健先生のご業績を紹介いたします。

糸数先生は、那覇市医師会理事、副会長、会長を合計21年間務められました。又、日本産婦

人科医会沖縄県支部（旧日母）の理事、副支部長、支部長を合計37年間務められました。日本産婦人科学会沖縄県地方部会理事を昭和45年以来務められ、現在39年に至っております。

那覇市医師会にあっては、糸数先生は常に強力なオピニオンリーダーであり、先生の判断と行動は常に正確迅速でした。各種検診事業、学校保健、予防接種、救急医療、健康教育、臨床検査センター事業、看護学校運営などあらゆる医師会事業の向上発展に大きく貢献されました。

昭和41年から日本産婦人科医会沖縄県支部（旧日母）と医師会と新聞社が連携して実施している子宮ガン集団検診と県民への啓発活動では、糸数先生は常に中心になって活躍しています。

先生は日本臨床細胞学会沖縄支部の設立に尽力され、昭和59年設立後は支部長を務めると共に、学術研修会や症例検討会を開催して検査技師の指導育成に尽力されました。これらの研修を受けた多くの検査技師が資格を得て、細胞診検査士となって、全県下で活躍しています。

糸数先生は全国比で最悪であった沖縄県の乳幼児死亡率、新生児死亡率の改善にも尽力されました。平成8年にスタートした南部地区周産期ネットワーク協議会、現在は沖縄県周産期ネットワーク協議会となっておりますが、糸数先生はこの協議会の設立のために尽力されました。本協議会は未熟児を受け入れる県内6つの国公立病院の新生児空床情報を毎日那覇市医師会で集計し、地域の産科診療所からの新生児搬送をスムーズにするシステムであります。このシステムは沖縄県の新生児死亡率の改善に大きくつながっており、日本医師会や厚労省からも高く評価されています。糸数健先生には、今後ともお元気に私達をご指導下さいませようお願いいたします。

これで、御三人の先生方の業績紹介を終わります。本日は誠におめでとうございます。

祝 辞

奥村啓子沖縄県福祉保健部長



平良先生、幸地先生、糸数先生この度の栄えある受章、誠におめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

平良先生におかれましては、昭和33年に中央精神科医院を開設し院長に就任後、今日に至るまで沖縄県の精神薄弱児教育福祉対策に取り組みられたほか、精神衛生事業に尽くされた功績、沖縄県精神病院協会長として重責を遂行された功績など、精神科医療の技術向上、本県の精神衛生事業の進展等に大きく貢献されました。

幸地先生におかれましては、昭和37年8月に内視鏡同好会の設立を提唱、理事に就任後から今日に至るまで、沖縄県がん協会設立にご尽力されるとともにがん検診の充実発展に努められる等、本県のがん対策に大きく貢献されました。

糸数先生におかれましては、昭和41年に帰郷後今日まで日本母性保護医協会沖縄県支部を誕生させ、子宮がん撲滅事業に取り組みられたほか、日本臨床細胞学会沖縄県支部を発足されるなど、専門とする産婦人科以外にも本県の地域医療活動に大きく貢献されました。

平良先生、幸地先生、糸数先生の保健、医療、福祉の向上に対する多大な貢献に対し心から感謝申し上げます。

さて、多くの離島を抱える本県にとって、離島医療体制の整備や医師の確保は重要な課題となっており、その解決に向けて県医師会と連携・協力し、総合的な保健医療体制の確立に取り組んでいるところであります。沖縄県医師会の先生方には、なお一層のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに平良先生、幸地先生、糸数先生の今後ますますのご健勝とご活躍並びに会場の皆様のご健勝を祈念申し上げお祝いの言葉といたします。

平良賀計先生 謝辞



本日は大勢の方々においで頂き私共に対する心からのお祝いをして頂きありがとうございました。私は福祉のためや何かに尽くしたという覚えはございませんが、折角叙勲をあげるというので、「じゃあ頂きます」ということで頂いた次第です。

11月11日に皇居に参りましたとき、私が年長者に見えたのか、天皇陛下が私に話しかけて下さいました。「どこから来ましたか?」とおっしゃるので、「沖縄県から来ました」と答えましたら、「どこに住んでいるのですか?」とおっしゃるので「那覇市に住んでいます」と答えました。

すると「今度の戦争は大変でしたね」とおっしゃるので「はい、大変でしたがもう復興して・・・」と答えようとしたら、すでに向こうに行っていました。

すると「今度の戦争は大変でしたね」とおっしゃるので「はい、大変でしたがもう復興して・・・」と答えようとしたら、すでに向こうに行っていました。

本年は私共の病院の創立50周年でもあり、私の米寿の祝いでもあり、また今月の20日に私の句碑が宮古に出来まして、その除幕式を終えて帰ってきたばかりであります。また、家内との結婚60周年記念でもあります。よく持ちこたえたと思います。私にとっては五重の喜びの本年は最良の年であります。皆様のおかげでこうしてお祝いもして頂き、どうもありがとうございました。

幸地昭二先生 (真栄田常任理事代読)



本日はご多忙にも関わらず、この壇上におります3名の為に出席頂きありがとうございました。只今、友寄那那覇市医師会長先生よりお話がありましたように、

これまでの医師としての活動は四つの時代になります。

一つ目は、大城外科勤務時代に研究熱心な大城先生の依頼で、陸軍病院の病理検査室へ病理標本を運ぶ役目を仰せつかり、そのお陰で臨床検査センターとのパイプを作ることが出来、5周年記念事業の前に会長職を仰せつかり、その後法人格を取得した那覇地区医師会で、當山会長先生の下、副会長を務めさせて頂いた時代です。

二つ目に、大城先生の薦めで東大八研に出張し、その時の経験を生かして、胃カメラ同好会を大城先生、喜屋武先生方と共に結成いたしました。その同好会が、森純伸先生の助言等もありまして、今日の内視鏡学会へと大きく変化していく中で深く関わっていた時代です。三つ目に、前田先生、崎浜先生の提案で看護学校設立が那覇市医師会理事会にて正式に決定し、当時の當山会長、赤嶺事務長が上京して一度は断られた補助金を西銘衆議院議員の協力を得て出して頂けるようになった際に計画書修正のお手伝いをしたり、看護学校の先生探しに東奔西走した時代です。

四つ目は、那覇市の救急センターの設立に関わった時代です。この時は復帰後で看護師不足の中、コザ病院の救急センターの閉鎖の話が当時の宮里副知事に持ち込まれ、救急の対応を宮里副知事を中心に行い、県の支援を取り付け、閉鎖に至らずに済ませたこと、その後那覇に夜間救急センターの設立を當山会長に依頼され、旧県立那覇病院跡に設立まで関与することができました。

その後、脳梗塞で倒れましたが、運良く回復し県庁の診療所長を任されたり、対ガン協会の





全国大会に毎年出席したことを評価して頂き、
検診者を2台贈答して頂いたことを覚えており
ます。

最後になりますが、佐藤八郎九州地方内視鏡
学会長のお陰で第2回認定医会議で沖縄に私を
始め高里先生、佐久本先生ら20名の認定医を
出すことが出来、その祝賀会を盛大に行えた
事、大変良かったと思っております。

この度は県医師会長、那覇市医師会長を始め、
諸先生方のお陰でこのような日本医師会最
高優功賞を頂くことができましたことを心より
感謝します。誠にありがとうございました。



ほどは県医師会長よりご丁寧なご挨拶を頂きあ
りがとうございました。友寄那那覇市医師会長か
らは私の業績をご紹介いただきましたが、友寄
先生は小学校の頃から作文が好きで、ほめ方も
上手だと思いました。ありがとうございました。
奥村沖縄県福祉保健部長からはご丁寧なご
祝辞を頂戴し本当にありがとうございました。

この度、医師会の推薦で沖縄県功労章を受章
いたしました。受章してはじめてその反響の
大きさに驚いており、果たして自分がそれに見
合うような仕事をしたか振り返ってみますと忸
怩たる思いがありますが、物事はポジティブに
考えようと、まだ老けるのは早いからもう少し
頑張れという激励と私と一緒に今までやってき
た仲間を代表して受け取ったものと理解するよ
うにいたしました。これからも精進・努力して
もう少し世の中のために尽くせるように頑張る
つもりです。これからもご指導ご鞭撻をよろし
くお願いいたします。

本日はありがとうございました。



糸数健先生 謝辞



本日は平日で診療の
お疲れであるにも関わ
らず、大勢の方々にご
参加頂きありがとうござ
います。懐かしいお
顔もあちこちに見られ
て嬉しく思います。先

